

第2回

ビアリッツ/フランス
 Biarritz France

砕ける波音を聴きながら

リクルート=スタディサプリ講師 村山秀太郎

スペイン・バスクとフランス・バスク

世は「バスクブーム」である。数年前NHK・Eテレの語学講座『旅するスペイン語』が男性俳優を起用しサン=セバスチャンを基点とする番組を製作したと思ったら、今年



はフランス・バスクをイケメンのバレエダンサーが案内する『旅するフランス語』講座、まさに双方向からの“バスクづくし”となっている。

かく言う私も大のバスク好きである。美食で鳴らすスペイン・バスクの街サン=セバスチャンには、海老の串焼きとピミアントス(ピーマン)なら Goiz Argi とかフォアグラなら Bar Sport、目と舌を喜ばすなら Gandarias とお気に入りのピンチョス



カレイの料理と白ワインを堪能(ゲタリア)

バルがある。漁村ゲタリアの lribar では海に迫るワイナリーで作られるご当地白ワインと一緒にカレイの料理を堪能し、ビルバオのグッゲンハイム美術館にある理科実験室風のミシュラン星つきレス

トラン Nerua では「このランチコースは和食をモチーフにしたの？」とウエイトレスに尋ねてムッとされ、山間の坂道の街エイバルでは町民が集うイプルア・サッカー競技場でイニエスタ主将率いるバルセロナFCのメッシらスター選手たちに囲まれながらも突破をはかる乾貴士選手の勇姿にスタンドから日本語で声援を送った。オンドリビアはサン=セバスチャン空港の横に位置するが、フランス(都市名はアンダイエ)との国境にあるカラフルな家屋が並ぶ散歩に適した、イカした街である。

私がバスクに思い入れがあるのは、フランス・バスクの街バイヨヌに親しい家族がいるからだ。バイヨヌは生ハムが名産であり、またフランス初のチョコレート屋ができた街だとされる。

チョコレートをフランスに伝えたのはブルボン王朝ルイ13世の妻アンヌだそうだ。このアンヌ=ドートリッシュはオンドリビアからアンダイエへと渡って、スペインのハプスブルク家からフランスのブルボン家に政略結婚で嫁いできた。だが、個性が強く夫と不仲。ついでに宰相のリシュリューとも反りが合わず、それゆえリシュリューは三十年戦争という17世紀の宗教戦争において旧教(カトリック)国でありながら、新教国スウェーデンと組んでカトリックのハプスブルク家に宣戦したという説もある。またある時突如妊娠したものだから、子の太陽王ルイ14世はルイ13世の種ではなく宰相マザランの子では? との風評も立った。そのバイ